

2016 年度
社会貢献活動報告書

花王グループは、豊かな生活文化の実現に向けて、花王ウェイ（企業理念）を基本に、社会貢献活動の方針とテーマと重点分野を定め、企業市民として、より良い社会づくりに貢献していくことに重点をおいて活動を行なっています。

2012 年度より、「次世代を育む環境づくりと人づくり」をテーマに、「環境」「教育」「コミュニティ」の分野を重点に活動を進めてまいりました。社会貢献活動は一過性のイベントではなく、豊かな生活文化の実現に向けて、長期的な視点に立って、社会に変化をつくることが求められています。2016 年度は、花王の知見やリソースを活かし、事業領域での社会への貢献を意識して、新たな取り組みを進めてまいりました。

- ① ベトナムにおける学校衛生プロジェクトへの支援
- ② 石巻市で「地域の健康を住民で支え合う健康づくり」へ協力
- ③ 家庭品点字シールリニューアル

最近では、グローバルな事業展開が進んでいく中、社会の基盤を支える「企業市民としての活動」とともに、事業の継続や拡大につながる「事業を通じて社会へ貢献する取り組み」の両方が期待されています。それぞれの活動が一体となり、1 つの方向をめざし、社会のサステナビリティへ貢献していくことを目指してまいります。

2016 年度活動トピックス

●ベトナムにおける学校衛生プロジェクトへの支援

子ども達が正しい衛生習慣を身につけ、安心した毎日を送れるようにすることで、花王の事業領域である「衛生」分野でグローバルな社会課題解決に向けて貢献していきたいと、国連児童基金ユニセフとパートナーシップを組み、ベトナムでの「学校衛生プロジェクト」の支援を開始しました。

事業展開国であるベトナムは、経済発展は著しいものの、未だ経済格差が大きく、プロジェクトの対象地である An Giang 省は、厳しい生活状況にある子ども達の多いエリアです。このプロジェクトでは、2016 年から 5 年間で 60 校 35,000 人の子ども達を対象とし、学校教育での衛生環境の整備、衛生習慣の確立を目指してまいります。正しい生活習慣を身につけることで、出席率や就学率、通学率の向上につながり、ひいては、子ども達から家庭、コミュニティ全体の衛生環境の改善にもつながります。

2015 年、国連では「持続可能な開発目標」（SDGs）を採択しました。このプロジェクトは、SDGs の目標 6「安全な水とトイレを世界中に」へも寄与する活動として進めてまいります。



●石巻市で「地域の健康を住民が支え合う健康づくり」へ協力

東日本大震災復興支援への取り組みとして、2016 年 5 月より、地域高齢者の健康づくり活動に取り組む一般社団法人りぷらす（宮城県石巻市）が主催する「おたからサポーター養成講座」への協力を始めました。

地域の過疎化に伴う高齢化は、大震災を機にさらに加速しています。りぷらすでは、地域の健康を住民で支え合う健康づくりを進めるため、地域のリーダーとして住民の健康づくりを担う「おたから（おたがいからだ）サポーター」の養成講座を開催しており、花王の健康に関する知見やリソースを活用していただいています。花王社員による歩行（ロコモ）と内臓脂肪（メタボ）関連のセミナーや、歩行解析システム、内臓脂肪測定器を用いた測定会を定期的実施し、受講者の方がご自身の健康度を数字で認識し、健康意識の向上につなげていただいています。

2017 年も引き続き、りぷらすの活動に協力し、活動の優位性をエビデンスとして示し、可視化することに取り組みながら、高齢者の健康づくり活動の先導モデルになるよう、りぷらすの事業基盤の強化をサポートしてまいります。



⇒「東日本大震災への対応」は 14 頁参照

●家庭品点字シール リニューアル

花王では、誰もがより便利で豊かな日常生活を送っていただきたいと、2001 年より点字と墨字で印字する「家庭品点字シール」を制作し、目の不自由な方へ提供してまいりました。

2016 年 11 月、商品の多様化やコンパクト化、さらには生活者の方の安全への意識が一層高まってきている背景にともない、シールをリニューアルしました。

リニューアルにあたっては、目の不自由な方や、高齢で小さな文字が見えづらくなった方などとの勉強会、家庭訪問などを行ない、ご意見を反映させていただきました。新しく、「おしゃれ着」「柔軟剤」「食洗機」など新しいカテゴリーや使用場所、数字、記号などを追加し、38 種類の構成としています。

目の不自由な個人の方や、盲学校、点字図書館など学校や施設など約 7,300 件に配布しました。



⇒「情報のバリアフリー」は 10 頁参照

社会貢献活動全体像

<テーマ>

次世代を育む環境づくりと人づくり

<活動方針>

- ・次世代の育成に役立つ活動を行ないます。
- ・地域の社会・文化の発展に貢献することを目指した活動を行ないます。
- ・持続可能な社会に向けて、環境を守り育てる活動を行ないます。
- ・社会的支援として、バリアフリー社会を推進する活動を行ないます。
- ・花王の持つ資源を有効に活かせる活動を行ないます。
- ・一人ひとりの社員が良き市民として、社会的活動に参加できるような風土をつくります。

<全体像>

次世代を育む 環境づくりと人づくり

より良い環境を次世代に引き継ぐために、環境保全のみならず環境を守り育てる人づくりを両輪で推進します。

未来を担う子どもたちのために、花王のリソースや強みを活かした活動を推進します。

多様なコミュニティと共により良い社会を築くために、地域社会やNPO・NGOと連携した活動を推進します。

環 境

教 育

コミュニティ

社員参加型の活動

メセナ支援

公益財団法人 花王芸術・科学財団

花王芸術・科学財団は、芸術文化と科学技術への助成及び研究者の顕彰等を通じて、日本の芸術文化と科学技術の振興及び発展向上に寄与することを目的としています。

<http://www.kao-foundation.or.jp/>

1. 「環境」の活動

「環境」の活動として、「花王みんなの森づくり活動」「タイ北部“FURUSATO”環境保全プロジェクト」を展開しています。また、被災地支援となる社員参加プログラムとして「東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト」も実施しています。

花王・みんなの森づくり活動

緑豊かな環境づくりと、その環境を次世代に引き継ぐための環境を守り育てる人づくりを行なうプログラムで、社会と“いっしょに eco”の柱となる活動です。

全国から森づくりや環境教育に取り組む NPO・市民団体を公募し、「森づくり分野」と「環境教育分野」合わせて、毎年 20 件程度を選定し、3 年間継続して支援します。支援先には、花王からの助成金を活用していただくほか、支援先同士や花王との交流の機会を設け、活動のさらなる広がりを支援します。

プログラムは、公益財団法人都市緑化機構と協働で運営し、2000 年から 2016 年に支援した団体数は累計で 426 件となりました。これは、都道府県が把握する森づくり団体数約 3,000 の 15%弱になっています。また、環境保全活動を通じて、現代の地域社会の抱えるさまざまな課題を解決し、地域のより良いコミュニティ形成にも寄与しています。



<2016 年度の活動>

- ・21 団体の支援を新たに開始
- ・2015 年度に支援を開始した 15 団体にヒアリングを実施、活動状況を確認した上で継続助成

タイ北部“FURUSATO”環境保全プロジェクト

タイ北部における急激な森林減少・破壊と、それが引き起こす水害・煙害等の環境問題の改善をめざし、海外での“いっしょに eco”の柱となる活動として展開しています。

タイ北部チェンライ県チェンコン郡で、2012 年からの 5 年間で計 35ha に在来種を植林し、同時に環境教育を実施して環境を守り育てる人材の育成を行なっています。プログラムは公益財団法人オイスカ、オイスカタイランドとの協働で、植林地の日々の管理保全は地域住民の手で継続して行なわれ、雇用も生み出しています。計画の最終年となる 2016 年までには、累計で、目標としていた 35ha に 42,500 本を植林しました。プログラムは終了となりますが、現地で適切な管理が継続されるようフォローを続けていきます。



<2016 年度の活動>

- ・7ha に 8,500 本を植林
- ・2016 年 7 月に植林イベントを実施。行政関係者、住民、小学生など地域の方々と、タイ花王・花王社員含め 660 名が参加
- ・計画通り植林と環境教育を実施。木々の活着率も 75%を超え、適切に管理されている

東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト

東日本大震災で津波による被害を受けた干潟、田んぼでの生物多様性保全に関わる調査研究（主催：認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパン）へ、社員がボランティアとして参加し、調査研究のサポートを行なうことで、被災地復興支援、生物多様性保全、社員の生物多様性保全への理解促進をめざしています。



<2016 年の活動>

2016 年度：社員 10 名が 5 プロジェクトに参加

2013 年～2016 年累計：38 名参加

参加した社員の声：

「災害や人為的にもたらされた環境変化の影響が、動植物の多様性に密接に関わっていることを、チョウを通して知る良い機会になりました。また、これは一部地域の話だけではなく、世界環境全体に関連していることだと理解できました。」「知ることから支援が始まるのだと感じました。一方的なレクチャーなどでなく、一緒に泥だらけになりながら調査することで、共有できるものがあつたと思います。」

2. 「教育」の活動

「教育」の活動として、「出張授業」「理科教育支援」「花王・教員フェローシップ」を展開しています。また、出張授業では、関連した教材提供も実施しています。

理科教育支援（JSEC）

「JSEC」は、高校生のための科学と技術の自由研究を競うコンテスト（主催：朝日新聞社・テレビ朝日）で、花王は2005年から協賛し、花王賞と花王特別奨励賞を贈呈しています。賞の選定にあたっては、社内で事前審査を実施し、最終審査会で高校生のポスター発表を聞いた上で決定しています。また、事前審査の際の研究員からのコメントを高校生にフィードバックし、研究の一助にしてもらっています。

花王賞受賞校には、米国での国際大会への出場資格が与えられ、花王特別奨励賞受賞校には、花王の研究員との交流機会「スタディツアー」が贈られます。これまでの累計で18校に賞が贈られました。



<2016年度の活動>

・花王賞と花王特別奨励賞を贈呈

花王賞	「ファンプロペラの効率アップー風を変えるシンプルな表面加工ー」 南山高等学校男子部 田淵宏太郎さん
花王特別 奨励賞	「地下で虫を捕まえるウサギゴケ」 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 米田美桜さん、柊村康成さん 「オオアメンボ <i>Aquarius elongatus</i> の水面波への応答について」 長崎県立長崎西高等学校 野辺愛耶さん、近藤紀香さん、福澤咲知子さん

・受賞2校の生徒・教員を和歌山工場に招いて「スタディツアー」を開催（2016年3月実施）

アンケートより（抜粋）：

- ・日常生活での疑問を改善しようとする姿勢、仮説の重要性が分かった。
- ・基盤研究の重要性を認識した。教育の現場でも生かしたい。
- ・生徒だけでなく教員の研修としても有用だった。

花王・教員フェローシップ

生物多様性の保全に向けて、資金と人を支援するプログラムです。環境教育の実践者である教員に参加いただくことで、子ども達や地域への広い波及効果を期待しています。



プログラムは、認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパンと協働で運営し、教員に海外の野外調査プロジェクト（主催：認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパン）へボランティアとして参加する機会を提供しています。教員が現地で得た自らの体験や感動を、学校や地域での環境教育で活用いただいています。2004 年からの累計で 70 プロジェクト、138 名を支援しています。

参加した教員の声：

- 「さまざまな国と地域から集まって初対面の人と 1 つのチームを組み活動していくということは、今までの人生の中で最も国際理解の感覚を磨く場となった。」
- 「教師自身が経験して感じたことを素直に伝えることで、児童が自ら考えるきっかけを作ることができると確信した。現状に満足せず、常に探求心をもって新しいことに挑戦し、児童に還元したい。」
- 「こうした活動により多くの大人が関心を持つことはこれからの時代においてとても大切である。今回の体験や科学者の活動を、より多くの大人にも広めていきたい。」



<2016 年度の活動>

- 10 名が 5 プロジェクトに参加
- 活動報告会を花王社内にて開催（2016 年 11 月 5 日）
- 参加教員は、担任の枠を超えて学年や学校全体での報告を実施。これらの経験と環境教育の実践について、活動報告会を通じて情報を共有
- 2016 年度参加教員により、約 1,200 人以上の児童・生徒、教員等に向けて授業・講義等が実施（2016 年活動参加後～2017 年 3 月まで）

その他の活動（教育）

●出張授業

社員が講師となって学校を訪問し、「手洗い講座」「おそうじ講座」「環境講座」「UD 講座」を実施しています。事業とかかわりの深い分野で子ども達の生きる力の向上に貢献することをめざしています。

<2016 年度の活動>

出張授業 4 講座 計 205 校で実施。受講児童数 15,450 人、参加社員数約 1,091 人

●教材提供

授業で使える教材を提供しています。「手洗い講座」「おそうじ講座」、小学校 4 年生向け「いっしょにエコ日記」、中学校家庭科向け「環境のことを考えた快適な暮らし」があります。

<2016 年度の活動>

手洗い講座、おそうじ講座、家庭科教材を計 412 校に提供。いっしょに エコ日記を 381 校に提供

●理科実験講座

学会、科学館との連携などを通じて、研究員による講話や理科実験講座を実施しています。

<2016 年度の活動> 4 回実施、講師として社員計 8 名が参加

3. 「コミュニティ」の活動

「コミュニティ」の活動として、「花王社会起業塾」「花王ファミリーコンサート」などを展開しています。また、花王の社会貢献活動の出発点でもある「情報のバリアフリー」の活動、「福祉施設製品寄贈」なども実施しています。

花王社会起業塾

持続可能な社会を次世代に引き継ぐため、次世代を担うリーダーである若手社会起業家の育成支援に取り組んでいます。

特に「家族」を取り巻く社会課題をビジネスの手法で解決しようとする若手の社会起業家を支援しています。このプログラムは、次世代の社会起業家を育成・支援する「特定非営利活動法人 ETIC.（エティック）」との協同事業です。公募・選考・プログラム運営等は、複数企業が連携して支援する「社会起業塾イニシアティブ」*を通じて行なわれており、対象となった起業家には、約半年の期間中に、専門家や先輩起業家によるアドバイスを受ける機会を提供し、事業を軌道に乗せ、成長させるための支援を行ないます。

花王では、2010年からこれまでに20組の社会起業家を支援しました。また、社員と社会起業家との交流を通じ、社会課題への理解を深めるとともに、「起業家精神」を社内に吹き込むこともめざしています。

* 花王のほか NEC、エヌエス生命保険株式会社、2016年度より株式会社 NTT ドコモおよび株式会社 NTT ドコモ・ベンチャーズがオフィシャルパートナーとして参画。



<2016 年度の活動>

・2組の社会起業家を支援

- ① 中島 かおり さん（一般社団法人にんしん SOS 東京 代表理事）
「思いがけない『にんしん』に戸惑う女性とその家族が、安心して継続的に相談できる窓口運営と同行支援活動」
- ② 宮村 柚衣（ゆい）さん（合同会社はひぶべぼ 代表社員）
「働くママの不安を解消し、地元で楽しく働く仕組みづくり・新しい働き方を提案する紹介事業“日本ちゃのま project”」



- ・10月6日、2016年度新しく支援する社会起業家2組の紹介と昨年度の卒塾生3組の修了報告を合わせた会を茅場町本社で開催。

関連部門の社員25名が参加

参加した社員の声：

「前向きに課題と向き合い、真剣に取り組む姿勢から、熱い思いが伝わり、学びが多かった。」



花王ファミリーコンサート

事業場立地地域での地域貢献活動として、地域の方々に質の高い音楽に親しんでいただく機会を提供し、学校教育への支援もあわせて行なっています。

コンサートは、一流のアーティストを招聘し、事前準備や当日の運営を社員が担っています。チケット（1,000 円/1 枚）の収入は、全額地域の学校教育等へ寄付しています（1 公演につき 100 万円前後）。

2002 年から累計で 35 公演を開催し、来場者数は約 31,300 名となりました。



<2016 年度の活動>

- ・4 月 24 日、栃木県益子町にて、テノール・錦織健氏公演を開催。来場者 904 名、チケット収入を益子町、市貝町に寄付
- ・10 月 30 日、山形県酒田市にて、川久保賜紀氏(ヴァイオリン)、遠藤真理氏(チェロ)、江崎昌子氏(ピアノ)によるスペシャル・トリオ・コンサートを開催。来場者 700 名、チケット収入を酒田市に寄付

その他の活動（コミュニティ）

●情報のバリアフリー

障害の有無に関わらず誰もが豊かな生活を送れるよう、バリアフリーの理解と共有をめざす活動です。

<2016 年度の活動>

- ・日本点字図書館発行の会員向け音声情報誌「ホームライフ」に生活情報を 3 回提供し、社員 7 名が音訳ボランティアとして録音に協力
- ・バリアフリービデオ：寄贈 18 件。障害のある方々の生活の不便さを伝え、理解と共有を図る内容で、総合学習等の教材として活用
- ・生活情報音声 CD の無償提供：76 件
- ・点字シールのリニューアル（⇒「活動トピックス」3 頁参照）
- ・点字シールの無償提供（新旧含む）：293 件



●福祉施設への製品寄贈

地域貢献と社会支援の一環として、花王製品を寄贈しています。

<2016 年度の活動>

寄贈先：社会福祉協議会と連携して選定した団体。もしくは、社会福祉施設と、民間の運営する滞在型施設（病児家族滞在施設「ファミリーハウス」、あしなが育英会運営の滞在施設、民間運営の子どものためのシェルターや自立援助ホームなど）

4. 社員参加型の活動

社員参加型の活動として、「花王グループピンクリボンキャンペーン」を実施しています。また、社員有志の寄付組織として「花王ハートポケット倶楽部」を運営するほか、社員ボランティアを推奨しています。

花王ハートポケット倶楽部



社員の社会への参加のきっかけとすることを目的としたプログラムで、地域社会との信頼関係の構築もめざしています。

倶楽部の趣旨に賛同した社員が会員となり、給与の一部を拠出して基金として積み立て、NPO・NGO・市民団体への寄付を通じて社会的活動に役立てています。災害時は、緊急の資金援助も行ないます。倶楽部の運営は、会員の代表である運営委員が担っています。

事業場立地地域の市民活動を支援する「地域助成」を栃木・和歌山・茨城で実施し、2013 年から大型助成「みらいポケット基金」で国際協力など規模の大きなプロジェクトを支援しています。また、健康づくりに積極的に取り組む社員を応援する制度「QUPIO ポイントプログラム」では、社員が取り組む健康づくりの活動を「QUPIO ポイント」としてポイント化し、倶楽部を通じて、途上国の学校給食支援を行なっている TABLE FOR TWO International への寄付も行なっています。

社員がボランティアとして参加するプログラムとしては、絵本が不足している途上国の子どもへ絵本を贈る「絵本を届ける運動」や、途上国の女性の健康を守る啓発チャリティ・ファンラン「YMCA チャリティランホワイトリボン 2016」をなどを実施しています。

2004 年からの累計で 543 件、9,920 万円を寄付しています。



<2016 年度の活動>

- ・2016 年 12 月現在の会員数：2,742 人
- ・運営委員会 14 回開催、53 件を支援
- ・地域助成(栃木・和歌山・茨城)：17 団体を助成。投票による選考にのべ 2,008 名の社員が参加、339 名が助成先への応援メッセージ協力
- ・大型助成「みらいポケット基金」：6 団体を助成。15 名の運営委員が選考に参加
- ・ボランティア参加数：絵本を届ける運動 180 名、ホワイトリボン 2016 月 24 名
- ・助成先とのコミュニケーション：「みらいポケット基金」贈呈式と報告会を開催（3 月 4 日）、栃木・和歌山地域助成贈呈式と報告会を開催（3 月 16 日・24 日）
- ・Qupio ポイントからの寄付 863 ポイント

花王グループピンクリボンキャンペーン

乳がんや女性の健康を応援したいと、化粧品の「店頭」という花王グループの持つ強みを活かした啓発活動です。

この活動は、2007 年に花王とカネボウ化粧品合同の社会貢献活動としてスタートしました。10～11 月に、花王ソフィーナ・エスのビューティアドバイザーと、カネボウ化粧品のビューティカウンセラーがピンクリボンバッジを着用し、化粧品店頭にご来店いただいたお客様に、乳がん早期発見

の大切さを伝えるリーフレットをお渡ししています。これまでに日本のほか海外でも 8 カ国で活動を実施し、2007 年からの累計リーフレット制作は 763 万枚となりました。

化粧品店頭での活動以外にも、社会に広く情報を発信するために特設サイトを運営したり、検診受診を後押しするアプリも提供しています。商品の売り上げの一部を啓発活動に寄付したり、啓発活動に社員が参加するなど、独自の活動を行なっています。



<2016 年度の活動>

- ・10 月～11 月に化粧品店頭での活動を実施。日本だけでなく、中国・香港・台湾のソフィーナ、中国・台湾・タイ・マレーシア・シンガポール・インドネシア・フィリピンのカネボウので実施
- ・iPhone 向け「笑顔つながる“ピンクリボンアプリ”」を継続提供
- ・カネボウで特定商品購入に応じて 100 円を認定 NPO 法人乳房健康研究会に寄付

その他の活動（社員参加型の活動）

社員がコミュニティとかかわることを応援し、活動参加のきっかけとなるよう、情報の提供や具体的な活動機会の提供を行なっています。

<2016 年度の活動>

- ・ ボランティア情報サイト運営：社会貢献部で選定したボランティア情報、NPO 情報など、計 23 件発信。社員による活動の報告を 34 件掲載
- ・ ボランティア参加機会提供：計 8 件、参加社員数 467 人

5. メセナ支援

豊かな生活文化の実現とモノづくりの基盤を支える文化の発展のために、優れた芸術文化の発展と継承、担い手となる次世代の育成を支援しています。

若手芸術家育成支援

次世代を担う芸術家育成の活動を支援するため、東京音楽コンクールを主催（共催：東京文化会館・読売新聞社・東京都）し、日本の音楽界の次世代を担う人材の発掘・育成を目的としています。各部門優勝者がオーケストラと共演してコンサートを開催するほか、入賞者には、単独公演の開催を含め、公演機会の提供など、東京文化会館が5年間バックアップを行なっています。



<2016年度の活動>

- ・第14回目となるコンクールを開催。弦楽、金管、声楽の3部門で、応募総数463名、入賞8名

芸術文化活動支援

優れた芸術文化の発展と継承のために、国内の優秀な音楽・舞台公演と美術展開催を支援しています。

<2016年度の活動>

- ・舞台公演協賛：新国立劇場 特別支援企業グループとして協賛
- ・交響楽団への賛助：日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、NHK交響楽団定期演奏会
- ・音楽公演協賛：東京交響楽団定期演奏会、NHK交響楽団「第九」公演
- ・美術展協賛：「ダリ展」（主催：読売新聞社）、「ルノワール展」（主催：日本経済新聞社）



6. 東日本大震災への対応

東日本大震災からの復興支援として、既存の社会貢献プログラムや花王のリソースを活かしながら NPO・企業ほか、多様な組織と連携し、現地のニーズや課題に添った活動を行ないます。現在、「心のケア」と「自立的復興（産業復興）」の2つの柱で活動を継続しています。

みちのく復興事業パートナーズ

2012 年 6 月、企業がそれぞれのリソースを活用し、被災地で事業に取り組み東北を支えていく、次世代リーダーを支援する企業コンソーシアムとして、特定非営利活動法人 ETIC.（エティック）によって設立され、現在、企業 6 社が参画しています（2017 年 3 月現在*）。将来、東北のハブとなる事業団体に向けた研修を実施したり、コンソーシアムを通じて現地のニーズを可視化し、企業のリソースとマッチングしたニーズに合わせた支援を行ないます。また、毎年 3 月に、ETIC.と参画企業とが連携してシンポジウムを開催し、社会に向けた情報発信を行なうなど、現地の自立的な復興を支えています。

* <参画企業> いすゞ自動車株式会社、株式会社ジェー・シー・ビー、株式会社電通、株式会社東芝、株式会社ベネッセホールディングス、花王株式会社 （2017 年 3 月現在）

<2016 年度の活動>

【コンソーシアム全体での取り組み】

・事業ブラッシュアップ・プログラム：これからの地域を支えるような特定テーマを牽引することが期待される 6 団体を選び、ビジョンと戦略を磨き、次のステージにステップアップするためのきっかけづくりの場を提供。7 月、4 月(2017 年)に合宿開催。

・第 4 回みちのく復興事業シンポジウム：「東北から未来を描く～これからの企業の役割を考える」をテーマに、東北の現状と今後の企業の復興支援のあり方について考える機会を提供。3 月 8 日電通ホールにて開催、企業の CSR 担当者・社会貢献担当者等 173 名が来場。社員 17 名参加

【花王単独での取り組み】

・第 4 回花王復興応援イベント：3 月 7 日、「いつまでも大震災を忘れない」という思いのもと、講演会「南三陸にみる 復興と未来」と「復興応援市」を茅場町本社で開催。社員による農業ボランティアを実施している南三陸町の復興の状況やまちづくりの取り組みについて、現地の NPO の方々からご紹介いただくと共に、南三陸町の物産市を実施。来場者 93 名

・花王 G 南三陸町ボランティア：被災地の見学と農業ボランティアの機会を提供。南三陸町の小野花匠園で 10 月 15-16 日の 1 泊 2 日で、第 3 回目のボランティアを開催。社員 23 名が参加



スマイルとうほくプロジェクト

東北の新聞社 3 社（岩手日報社、河北新報社、福島民報社）が主催する、被災地に笑顔を広げ、日本中に東北の元気を発信する「スマイルとうほくプロジェクト」に協賛しています。花王グループ社員が花を植えたり、仮設住宅訪問などを行ない、現地との交流を深めました。

<2016 年度の活動>

仮設住宅 20 か所を訪問。新たに、福島県では、楽しく「歩く」をテーマにした活動を 2 回実施



7. 災害支援

2016 年度の花王グループによる主な災害支援

災害	会社	支援内容
熊本地震	花王（株）	発生直後に、日本赤十字社を通じて義援金 1000 万円、社員寄付組織の花王ハートポケット倶楽部から 20 万円を寄付。復興支援として、熊本県庁へ 1000 万円を寄付。 被災者支援として、発生直後と仮設住宅入居時に 1300 万円相当の製品を寄贈
日本 台風 10 号	花王（株）	被災者救援活動支援のため、中央共同募金会を通じて、社員寄付組織の花王ハートポケット倶楽部から 20 万円、花王（株）から 20 万円を寄付。行政等を通じて、70 万円相当の製品を寄贈
ハイチハリケーン (Hurricane Matthew in Haiti)	花王（株）	被災者救援活動支援のため、日本赤十字社を通じて、社員寄付組織の花王ハートポケット倶楽部から 20 万円、花王（株）から 20 万円を寄付
インドネシア水害 (Garut Flash Floods)	花王インドネシア	被災者支援のため 70 万円相当の製品寄贈および社員ボランティア協力
インドネシア地震 (Aceh Earthquake)	花王インドネシア	
カナダ山火事 (Fort McMurray Wildfire)	花王カナダ	被災者支援のため 120 万円相当の製品寄贈

8. 海外グループ会社による主な地域貢献活動

エリア	会社	内容
中国	Kao (China) Holding Kao Commercial (Shanghai) Kao (China) Research and Development Center Kao (Hefei)	節水啓発活動、初経教育（合肥市と連携）、美化活動、恵まれない大学生・家庭支援で上海市慈善基金会寄付、葫芦島市老人協会へ製品寄贈、Enactus 支援、大学生に向けキャリア教育支援、大学生日本語スピーチ大会支援、工場見学
	Kao Chemical Corporation Shanghai Huludao Jinxing Casting Material	道路・河川清掃、安全環境に関する近隣住民との交流・セミナー開催、地域と連携した消防訓練、献血への協力、葫芦島市政府・老人協会への製品寄贈、工場見学
	Kanebo Cosmetics (China)	大学生起業支援、女性の健康支援の寄付、福祉事業への寄付、上海市の老人ホーム・知的障がい者施設の職員への製品寄贈、ピンクリボンキャンペーン
香港	Kao (Hong Kong)	ピンクリボンウォークに寄付、障がい児支援チャリティウォークへの製品寄贈、福祉支援団体への製品寄贈、農村地域の教育支援団体への製品寄贈、職業訓練校への製品寄贈、大学オリエンテーションキャンプへの製品寄贈、YMCA への製品寄贈
台湾	Kao (Taiwan) Corporation	海岸清掃、小学校でのお掃除講座、衛生教育キャンペーン、ピンクリボンキャンペーン、工場見学
	Taiwan Kanebo Cosmetics	ピンクリボンキャンペーン
ベトナム	Kao Vietnam	子ども福祉のためのクリスマスカード購入、孤児院への製品・物品寄贈
フィリピン	Pilipians Kao	マングローブ植林、高校生・技術専攻大学生への奨学金提供、工場近隣の小学校・高校の修繕への寄付、地域住民の医療受診支援、地域伝統文化支援、工場見学
タイ	Kao Industrial (Thailand)	清掃活動、タイ北部植樹活動（花王㈱と連携）、NGO への製品寄贈、50 周年記念で国境警備隊学校への製品寄贈、農村部小学校のトイレ改装・新築支援、手洗い講座、工場見学
	Kanebo Cosmetics (Thailand)	ピンクリボンキャンペーン、企業見学
マレーシア	Kao (Malaysia)	初経教育
	Fatty Chemical (Malaysia) Kao Plasticizer (Malaysia) Kao Oleochemical (Malaysia) Kao Soap (Malaysia)	植樹活動、文化交流イベントに寄付、高齢者施設での交流と製品寄贈、児童養護施設との交流と製品寄贈、発達障がい児支援学校での交流と製品・物品寄贈、スポーツ支援のための製品寄贈、病院と連携した献血、障がい児絵画購入・消防隊員組組合・チャリティーイベント・末期患者支援団体への寄付、小学校での衛生教育、中学校での環境啓発、洪水被災者への製品寄贈、工場見学
	Kanebo Cosmetics Malaysia	ピンクリボンキャンペーン

エリア	会社	内容
シンガポール	Kao Singapore Consumer Products/Chemical	高齢者住宅への掃除支援、小学校でのお掃除講座、生理用品の売上の一部を寄付
インドネシア	PT Kao Indonesia	子どもの衛生と健康プログラムの実施、環境団体、赤十字、地元祭事への寄付と支援、環境絵画展、洪水・地震被災支援と製品寄贈、工場見学
オーストラリア	Kao Australia	福祉団体、スポーツ、芸術、若者、子供支援等への製品寄贈
カナダ	Kao Canada	途上国支援団体への寄付、赤十字、がん患者支援、動物保護などチャリティ団体へのマッチング寄付・製品寄贈、職業訓練校プロムでのヘアメイクサービスなどの支援・物品寄贈、山火事犠牲者への製品寄贈
アメリカ	Kao USA	清掃活動への人的支援と寄付、ユナイテッドウェイ・地域の芸術・恵まれない子供などへの人的支援と寄付、早産防止等研究への人的支援、製品寄贈、寄付、ピンクリボン啓発活動への人的支援と製品寄贈、寄付
	Kao Specialties Americas	献血、ハイウェイクリーンアップ、ユナイテッドウェイ委員会への人的支援・物品支援・寄付、ユナイテッドウェイを通じたホームレスへの物品寄贈、慈善ゴルフ大会への寄付、学校の教育キャンプへの寄付、働きながら大学進学を目指す高校生のための職業訓練支援と製品寄贈、寄付
メキシコ	Quimi-Kao. S.A. de C.V.	幼稚園と高齢者施設のペインティングの支援と寄付、フードバンク支援と寄付、AIDS の子ども支援団体の支援と寄付、恵まれない子どもへのおもちゃ支援活動への人的支援と寄付、高齢者施設支援と寄付、工場見学
ロシア	Kanebo Cosmetics Rus	学校文化活動・弁論大会への製品寄贈
ドイツ	Kao Germany GmbH	子ども支援・環境教育に寄付
	Kao Chemical GmbH	スポーツ・地域の伝統文化・学校・障がい者雇用支援・高齢者福祉・消防団等への寄付、市発行冊子の支援で寄付、工場見学
スイス	Kao Switzerland AG	パラリンピックへ寄付、難民の語学クラスへのコンピューター寄贈、精神障がい者支援団体の衛生授業への製品寄贈
	Kanebo Cosmetics (Europe)	乳がん啓発のためのゴルフ大会への人的支援と製品寄贈・寄付
スペイン	Kao Corporation S.A.	工場近隣の市民団体・福祉団体・赤十字・フードバンクへの寄付、Mollet 市冊子発行と伝統音楽コンサートへの寄付、家族が恵まれない子供へのクリスマスプレゼントを持ち寄る活動にマッチング寄付、子どもサッカーチームの寄付、恵まれない学生への助成金、化学専攻の高校生への助成金、工場見学